



みどりのきずな

令和8年4月発行 第43号

編集: 緑区支え合いのまち推進協議会広報部会 発行: 緑区支え合いのまち推進協議会事務局 緑保健福祉センター内

TEL:043(292)8185 FAX:043(293)8284

第6期 千葉市地域福祉計画における取組みの方向性について — 少子高齢化が進展する地域社会における福祉活動の推進を目指して —

緑区支え合いのまち推進協議会 委員長 岡本 博幸

第6期地域福祉計画は令和9年度からスタートいたします。令和8年度はそのための準備期間であります。

本年度は第5期活動の課題の集約、整理のうえ地域においてその課題解決に向けた取組を行っていきたいと思います。また取組にあたっては千葉市地域福祉計画や千葉市社協行動プランの方向性を加味し、地域の特性を生かした取組を考えていくことが基本となります。

具体的には第5期の基本理念は大きく変わることは無いと思いますが、少子高齢化が加速度的に進展し、社会の変革にこたえる取組でなくてはならないと思っています。

第1期からの福祉の基本的考えである「自助・共助・公助」の精神は変わりません。

「自助」は、自分でできることは自分で行う自立の精神。

「共助」は、地域住民同士がお互いに支え合って人間関係を築き上げていく社会の実現。

「公助」は、自助、共助を中心とした取り組みを支援する公的施策や地域福祉計画を推進するための行政施策の推進。

以上が相互に関連しあい福祉活動は推進されることが必要と考えます。

これらの考えを基本としていますが、今日求められていることは「共助」による地域社会の推進ではないでしょうか。例えば

- ①見守りでは、地域で安心して生活できるよう、声かけ等をしましょう。
- ②支合い活動では、向こう三軒両隣の気持ちで、助け合いましょう。
- ③居場所づくりで、ふれあいを通して楽しみや喜びを共有しましょう。
- ④健康づくりでは、健康百年丈夫な体を作りましょう。
- ⑤福祉教育では、助け合いの心は小さい時から育てましょう。福祉の行事に参加しましょう。
- ⑥子育てでは、子どもは国の宝、悩みはみんなで解決しましょう。
- ⑦ふれあい食事サービスでは、おいしく食べ、話し合いを楽しく、交流を深めましょう。
- ⑧防犯・防災では、地域の目を張り巡らせ、防犯意識を高めましょう。

どれも大事な福祉活動の例です。

あれもこれもというより地域にあった、地域の課題を決めて取り組むようにしていきたいと思っています。

各実施主体において令和9年度から活動目標はどこに重点を置いて活動を推進していくか話し合ってください。

問い合わせ 緑保健福祉センター高齡障害支援課 TEL043-292-8138 FAX043-292-8276
社会福祉協議会緑区事務所 Email koreishogai.MID@city.chiba.lg.jp
TEL043-292-8185 FAX043-293-8284
Email midori@chiba-shakyo.jp

地域活動紹介

ふれあい・いきいきサロンの活動状況（誉田地区部会）

誉田地区部会高齢者福祉委員会では、千葉市社協行動プランの基本目標／施策の方向性3の一つとして「ふれあい・いきいきサロンの促進」の元、サロン活動の活性化並びにサロンの新設を目標に活動しています。

令和5年度末で活動は7サロン、令和6年度末1サロン増え8サロン、令和7年度はすでに3サロンが新設され合計11サロンで活動しています。新設されたサロンは誉田ニュータウンを中心として活動、誉田2丁目団地にお住まい方で活動、新型コロナウイルス感染の影響で解散となった「音楽リハビリ」を「うたごえサロン」と名前を変え再開の3サロンです。7年12月末での登録者数は参加者165人・ボランティア52人、7年4月～12月までの延べ活動人数は参加者820人・ボランティア365人です。各サロンのボランティアは、定例の活動内容のほか工夫をこらしながら活動しています。

当委員会では各サロンの代表者を集めて意見交換会も開催。引き続き、高齢者の引きこもり防止などのためサロン活動の充実並びに拡大を推進します。



福祉バザーの開催（椎名地区部会）

令和8年1月25日（日）、椎名地区部会を主催とし地区内各団体の協賛による「福祉バザー」が開催されました。（会場：椎名小学校体育館）

この福祉バザーは地元で数十年続いている年中行事のひとつです。

当日は各町内自治会役員の方々を通じて集荷された品々を、各販売ブースに振り分けて陳列し値札を貼って準備完了。

なお、今回も小学生ボランティアが数人参加し手伝っていただきました。ありがとう！

開始から食品類、瀬戸物類、日用品、米野菜、文房具類など、各コーナーには人だかりができて賑わい上々。各スタッフも勧誘～販売～集金と大忙し。当日スタッフの私も気に入った食器皿3組（各5枚）を購入し早速使用しています。

時間経過とともに値下げを期待して、様子見しているお客さんたちの気配……（笑）

各コーナーで値下げラッシュが始まるや、何処もまた人だかり。残っても困るので、例年どおり最後は叩き売り状態で売り尽くし。家族や友人と訪れて袋いっぱい下げて帰る方々を見て、こちらも嬉しくなります。それでも売れ残ったタオル類や生活用品は、地元の介護施設に寄付します。

皆様の協力ご支援によって存続する地元「福祉バザー」

その収益金の一部についても、去年は能登半島地震被災地へ寄付しています。

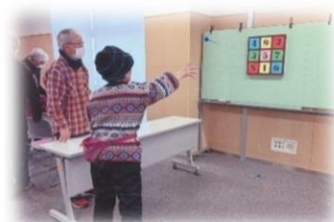
数十年続いている福祉バザーの更なる継続を願います。



ふれあい・いきいきサロン開催（平山地区部会）

令和8年1月30日（金）、高齢者福祉委員会主催の「ふれあい・いきいきサロン」を緑保健福祉センター大会議室で開催しました。地域にお住まいの高齢者の皆さまが孤独感を和らげ、閉じこもりを防ぎ、寝たきりや認知症の予防にもつながる交流の場として企画され、鎌取、南鎌取、平山、平山第一などの町内会・老人クラブから30数名の皆様にご参加いただき、会場は開始前から笑顔と再会の喜びにあふれていました。サロンは平山地区部会会長の挨拶で始まり、その後、「けやき園」の職員さんの指導のもと、認知症予防にも効果がある脳トレ体操を全員で行い、音楽に合わせて手や足を動かしながら自然と緊張もほぐれ、心も体も軽やかになっていく様子が見られました。

お楽しみタイムでは、テレビゲーム機を使ったボウリングや太鼓ゲーム、風船を割れない大きさを膨らませるゲーム、ジャンケンで脳年齢を測る脳トレゲーム、さらにダーツや輪投げにも挑戦していただきました。成功すると拍手が湧き、惜しい場面では励ましの声がかかるなど、会場は終始笑顔と笑い声で包まれました。お茶を飲みながら交代でゲームを楽しむひとときは、参加者の皆様にとって心も体も元気になる時間となりました。約1時間30分にわたり、地域のつながりの温かさを感じられる、和やかで楽しいサロンとなりました。



～おいしいね、たのしいね、たべるって大事だね～ 『幼児期から楽しく美味しく野菜をたべよう！』 in 子育てサロン（おゆみ野地区部会）

令和8年2月19日（木）、おゆみ野公民館にて、おゆみ野地区部会こども家庭福祉委員会「ふれあい・子育てサロン」が開催されました。今回は、「千葉市食育推進員緑支部おゆみ野班」7名の食育推進員に協力いただき、幼児期からの「おやつ」を紹介しました。

8ヶ月から2歳1ヶ月の乳幼児と母の7組14名、こども家庭福祉委員8名、広報委員1名、登録ボランティア1名、見学者1名、総勢25名が参加し、調理の過程を見学して食育推進員の話（親からの取り分け食など）を伺った後に親子で試食をしました。

「しらすチーズトースト・人参と青のりのクラッカー・大根のもっちり焼き・人参ときなこのポーロ・高野豆腐のフレンチトースト（作り方のみ）」…と盛沢山のメニュー。別室でスタッフと遊びながら待っていた子どもたちも美味しそうな匂いに誘われて調理室に移動し、母と一緒にモグモグタイム。

幼児期の「おやつ」といっても野菜をたっぷり使用した「食事」で栄養価は満点です。

「どれも形状を工夫していて子どもが手で持ちやすく、食感も色々で楽しい。」「塩分や糖分も控えめなのに美味しい。」「普段野菜を食べてくれない子どもがニコニコ顔で完食。母が、食べられなかった～。」「プロのレシピだから安心、是非とも作ってみたい。勉強になりました。」など感想をいただきました。

今回の「子育てサロン」も孤立しがちな子育て世代の親子が安心して集える場所を提供できました。おゆみ野地区では、色々な団体が協力し合いながら、地域の活動を盛り上げています。



共生社会へ向けた交流（セルフガーデンハウス・第504地区民生委員・児童委員）

令和7年12月11日(木)、高津戸町内会館での「いきいきサロン」において、クリスマス会を兼ねたポッチャ大会が開催されました。そして今回は同じ土気地域にある障害者施設「セルフ・ガーデンハウス」の利用者も参加し、交流の機会を作りました。

これは昨年10月に504地区の民生委員でセルフ・ガーデンハウスの見学に行き、その施設で生活したり日中活動を行っている利用者とふれあい、ぜひ高津戸町のいきいきサロンで交流ができたらと思った民生委員から施設の方へ声を掛けたのがきっかけです。

当日はセルフ・ガーデンハウスから3名の利用者が参加しました。施設でもよくポッチャをやっているのでサロンに来ている参加者の腕前にも負けず劣らず、各チームに交じって白熱したゲームを楽しみました。

会の終わりはたくさんのクリスマスプレゼントが参加者に配られました。皆さんが楽しい時間を過ごすことができ、とても有意義な交流となりました。



委員からの一言（千葉市身体障害者連合会 廣田 健次）

昨年12月、「緑区支え合いのまち推進協議会」に出席するため、会場へと向かっていたところ、千葉市緑保健福祉センター前の交差点に、「エスコートゾーン」が設置されていました。横断歩道の中央部に、線状のブロックが設置されていて、視覚障害者はこれをたどり、横断歩道から外れることなく、向こう側へと渡る事が出来る物で、音の出る信号機と組み合わせると、より大きな力を発揮してくれます。緑区内では、初めての設置かと思われます。

視覚障害者は、信号を渡る時とても大きな不安を感じています。「今は信号が赤です。」「信号が青になりました。」などと、お声かけいただけるとありがたいです。

今後、このエスコートゾーンの設置個所が増えてくれる事を願っています。



この広報紙が緑区住民のきずなを深め広めるために、少しでもお役に立てればいいな！と思います。(M・S)